様式第4号

令和７年度の教育活動に対する学校評価表【沼津スクーリング会場 】

キラリ高等学校　2025.2.7

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	教頭　岩ケ谷佐知子

A：よくできた　B：だいたいできた　C：不十分だった　D：ほとんどできなかった

	今年度の重点目標（学校経営目標）	具体的取り組み計画	自己評価	成果と課題	学校評価	学校関係者評価委員　意見
1	静岡県で最初に認可された狭域通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。	① 基礎学力の確実な定着を図るため、各教科担当間のコミュニケーション量を増し情報共有をしたうえで、よりわかり安い授業を展開する。生徒・保護者面談を通し、主体的に学習に取り組めるように導く。 ② 学校内はもとより校外での生活指導も継続して実践・強化し、基本的な社会性・モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。 ③ 遠足・修学旅行・文化祭などの特別活動や校外スクーリングをより充実させ、多くの生徒が積極的にかかわれるようにする。（全校での体育祭） ④ 進路選択において必要な基本的な知識・技能を育成し、進路決定を自ら推進できるよう導く。（外部機関・企業との連携）	B	①生徒・保護者面談を随時実施し、一緒に主体的に学習に取り組むための道筋を考えることができた。 教科内での情報共有を徹底し、昨年度からの電子化実施を踏まえた内容の改善に努めることができた。 教科内で協議を重ねることで、生徒の実態に即したレポートを作成することができた。 非常勤職員を含めた各教科担当間のコミュニケーションはまだ十分とは言えない。 面談については、特に進路に関することが多かった印象があるが、適宜実施できた。 生活習慣の改善に繋がるような保健指導や性教育を養護教諭としても検討していきたい。 ②校外学習やコースイベント等、内容を吟味した上で実行し、生徒の社会性の醸成に努めることができた。 モラルや規範意識の徹底については、総合のスクーリングで進路に絡めて実施できた。 生活リズムが夜型になっている生徒を改善させたり、自律した精神を養ったりすることは簡単ではない。 教員同士で情報共有を含め密に連携をとり、より良い学校の構築に意欲を燃やしている。 担任の枠を超えて皆で注視しながら生活指導等ができている。 ③特別活動や校外スクーリングを十分に実施することができ、学年を越えたコミュニケーションが生まれていた。 行事については多くの生徒が参加してくれた。文化祭は動員人数や募金額としては過去最高の盛り上がりとなった。 行事は自由に選べる選択の余地を残すことで、各自が強制感を意識せず参加するかしないかを決めることができて良かった。 友達作りのきっかけとして1年生を中心に友達作ろう会を実施できた。 他の養護教諭やカウンセラーと現状報告し、レクの引き出しを増やすことができた。 ④進路課中心に、自身の進路を自身でしっかり考えさせるような指導が進められた。 履修登録時に家庭に進路活動を促すことで、適切なタイミングで活動をできる生徒が多くいた。 進路関係の企業と連携して、様々な進路選択の材料を提示することができた。 保護者とも連絡を取りながら進路に向けた面接指導、履歴書添削等を行った。 近隣への進路説明会参加や講師を学校に招き講話を行うなど、外部機関と連携することができた。 進路選択に役立つよう、資格取得の声掛けを積極的に行い、多くの生徒が取得することができた。	AA	・軽度知的があるが自由に勉強も高校生活も楽しみたいという、通常の高校と特別支援学校高等部しか選択肢がなくどちらも自分に合わないと感じ行き場がなかったグレーゾーンのこどもたちのセーフティネットの役割も果たしてくれていると感じます。 ・とてもよくやってくださってると思います。 ・就職活動についてハローワーク求人だけでなく、地元企業からの指定校求人がもらえる様になれると良いと思います。 ・昨年と比べると、進路のイベントの参加機会が減ってしまったように感じます。授業編成や、生徒人数によっても実施の方法を考える必要があるかと思いますので、ご提案させていただきます。 ・特別活動や校外学習、校外ボランティアなどに生徒を積極的に参加させ、社会性やモラルを養うカリキュラムが充実していると感じる。 ・基礎学力の定着の為、授業・レポートを工夫してくださっている事、行事などを多く設定する事で生徒が楽しみながら人と関われる環境を作ってくださる事などから、高校卒業後に自分でしっかりと歩いていけるよう働きがけてくださっていることがわかり良いと思いました。
2	生徒一人一人の個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。	① 困難を有する多様な生徒（不登校傾向・問題行動・発達障害等）が積極的かつ充分な教育を受けられるように、学習に対する動機づけや学びの意欲を喚起できる教員の養成を行う。（スクールカウンセラーの活用） （テスト前勉強会等）（キラリカフェの充実・・保護者同志の連携共有） ② 個別対応、部活動、キャリア教育、インターンシップなどの分野に十分対応できる教員を育成する。また専門の機関・企業の協力も進める。 ③ 各校舎・教科単位で内部研修を実施し、キラリ高校の職員として共通の認識の上で、教職員の組織化を推進する。また、外部研修を活用して、多様な困難を有する生徒に対する支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。（全体での教科研修の定例化） ④ 未履修・休学中の生徒やその保護者へのアプローチを継続して行い、再履修および復学を促す活動をする。家庭訪問の計画的実施を行う。	B	①スクールカウンセラーと連携し、精神面で困難を有する生徒への対応に取り組んだ。 カウンセラーを交えたイベントや交流の場を増やしたことで、以前よりもカウンセリングに対するハードルが下がったと感じる。 カウンセラーとのコンサルテーションの時間が確保されていることで、ささいな生徒の変化も相談することができるようになった。 カウンセラーと協力して生徒保護者にアプローチすることで、家庭とも信頼関係が築け、生徒の学習に対する意欲も維持することができた。 カウンセリングだけでなく、様々なイベントを実施することで登校のモチベーションや自身の悩みを打ち明ける機会が増えるなど成果を感じた 不登校傾向のある生徒の登校頻度を上げることは今後も課題である。より積極的かつ十分な教育を目指す。 ②会場内で生徒情報を共有することで、合理的配慮をすることができた。 外部企業の実施する進路相談会を案内したり、引率して参加したりすることで、進路教育の一環とすることができた。 コースや文化祭で地域の方と交流する機会があり、以前に比べて連携や交流できていると感じる。 部活動やインターンシップは実施できていない。 ③外部研修は参加したい気持ちはあるが、業務に追われ参加が難しい実態もある。 月1で養護会議を実施し様々な事について検討を行うことができた。 養護教諭として緊急対策やアレルギー対応等の校内研修も実施をしていきたい。 ④未履修者0を達成できている。休学者は数名いるが、担任が継続的に連絡を取り続け、復学に向けて努力している。	AA	・ADHD、軽度知的、不登校気味な息子が学校が嫌じゃなくなったと言い、レポートをがんばっています。学習面で難しいことがわかっているので、一緒にレポートをやる補習をしてくれてやれています。 ・生徒数に対して、多いとは言えない先生の数で、丁寧に見てくださっていると思います。 ・通学に対して家庭との協力を募るのであれば、スケジュール等をもう少し明確化して欲しい。自分の子がいつ何時から学校なのかよく分かっていない。 ・先生方と生徒さんの距離が近いことで、のびのびと学ぶことができていたと感じました。 ・多様な生徒に対して少ない職員の皆様で対応するのはとても大変なのではと思うが、私の息子も含めよく声掛けし話をきき、やさしく対応してくださり素晴らしいと思う。 ・吉田本校以外の評定がBでしたが、過小評価だと思いました。(Aで良いと思います) 先生方へは、長女が在学中はとにかく生徒に寄り添ってくださり感謝しかありませんでした。 友達関係で少しでも問題があれば、必ず時間を作り話を聞き一緒に悩み考えてくださったり、不登校気味の生徒がいれば、なんとか関わりを作ろうとあらゆる方法を試してくださったそうです。 進路指導も熱心にしてくださってますが、大学や企業の話などを聞く機会などがあれば、卒業後に残念な結果になることが少なくなるのではないでしょうか。 授業以外の部分での仕事が多く、忙しく難しいところもあるかと思いますが、教員間の連携も取れているように感じ、担任だからということではなく、校舎ごとに職員全員で全員の生徒を見守り指導してくださる感じが素晴らしいと思います。 ・通信制という難しい環境でも生徒さんのことを考えてやっているよい学校だと思いました。
3	技能連携教育施設（スクーリング会場）のカリキュラム(コース）の改編を推進し、通学タイプの充実を図る。	① より多くの生徒が通学タイプの全日スタイルを選択しやすいように、コース内容の改編を図り、魅力あふれる内容の転換を目指す。 ② ①を推進するために、スクーリング会場ごとにコース担当を決め、会議を行い、コース内容の検討・充実化を図る。 ③ 他会場との連携および意見交換を積極的に行い、より綿密に個々の生徒へ対応する。また昨年来の課題であった授業研修を本格化させる。	B	①コース内では生徒一人一人にあった細やかな対応をすることができた。 情報コースでは生徒が検定に意欲的に取り組み、結果を出すことができている。 年度途中で通学頻度が下がったり、出席率も下がったりする傾向があるため、より魅力ある授業を実施することは今後の課題である。 ②生徒がより楽しんで登校できるような内容の検討を行ってきた。 コース担当関係なく生徒の出席状況や、授業内容について密に情報共有、意見交換を行った。 沼津会場では朝礼や終礼において情報共有を行っている。コースのみの会議は実施できなかった。 コース内容の改変については、出席率を鑑みて充実化を図るべきであるが、有効な手立ては見つかっていない。 ③他会場のコース担当と意見交換を頻繁に行い、良いものは取り入れることができた。 他会場の実施内容を参考に自会場で授業を実施することはあったが、他会場との連携や意見交換はもっと必要だと感じる。	AA	・ジョイスポーツコースで色々なスポーツを体験できるのが非常に魅力的だか、ゴルフ等の移動がかなり大変そう。 ・通学スタイルを進めていくにあたって、生徒さんへの情報提供ができる講演会を実施できないかとお話をいただきました。卒業後の進路をより豊かにするための取り組みとしてとても良いものだと感じています。 ・自分に合ったコースを選択することができ、無理なく通学できたと思う。 ・カリキュラムコースを、時代や生徒の望む環境に合わせて変更していく取り組みは良いと思います。興味を持てるコースであれば、通学する意欲にも繋がり卒業後の進路選択にも役立つのではないでしょうか。 ・今まで通りで良いと思います ・毎日学校に通うことはとてもよいことだと思います。 ・他の会場では様々なコースが用意されており、こどもたちの選択肢がひろがることを期待しています。 ・通学タイプの充実も大切ですが、いつまでも吉田校のウィークリーコースがなくならないことを願っています。
4	吉田本校の整備・拡充	① 定着しつつある、週３日の平日スクーリング（ウィークリースタイル）を継続して実施し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等様々な活動を通じ高校生活の充実を図る。 ② 生徒の社会性を高めるために各種イベントを企画することで、様々なニーズに合わせた学校生活の充実を図る。	－		－	
5	ＩＣＴ教育及び校務システムの整備	① レポート（添削指導）のデジタル化への推進と改善。 ② 校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図るため、システムの整備・拡充を図る。	B	①生徒も教員もレポートの電子化に慣れてきたことで、昨年度ほど大きな混乱には至らなかった。 レポートの採点は紙の時よりも円滑にできるようになった。業務（採点）の効率化や紙の削減が実現できている。 レポート不正を見つけることや一部空欄での提出を止めることができないため、指導が難しく感じる場面もあった。 ②システム側の不具合が度々発生しており、引き続きシステムの整備をしていくことが必要である。 成績管理面ではシステム不具合により業務遂行が困難となる場面もあり、校務支援システムの変更も視野に入れるべきか。 健康管理ソフトの導入を検討したい。	AA	・携帯でのレポート提出のおかげで家でも勉強に取り掛かるハードルが下がり自主的にやっている姿をが見られました。 ・デジタル化が進むと、文字を書くことが少なくなってしまうと思うので、社会に出た時に困らないよう、文字を手で書く機会を持って欲しいと思います。 ・レポート提出の際のサーバダウンが多くあった様なので、そちらの改善をお願いします。 ・今後ますますインターネットが必要となってくると思いますが、紙媒体も合わせて、生徒さんの進路活動をよりよくするサポートができればと思っております。 ・サーバーへ接続しにくくなることはあるが、自分がらくな姿勢でいつでもレポートに取り組めるため、宿題をやりやすくなったと思う。 ・電子化でのレポート提出はまだまだスムーズにいかないようなので、引き続き改善に力を入れていただくようお願いします。 個人的には、紙に書くことでしか得ることが出来ないものもあると思うので、浜松校舎の美術のレポートでのデッサンなどの課題は無くさないという姿勢がとても嬉しかったです。